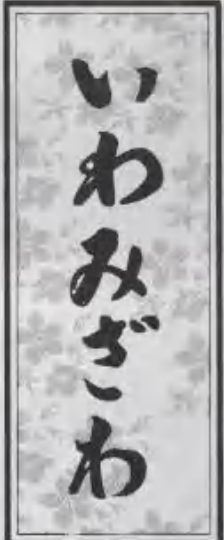


岩見沢駐屯地創立45周年 第十二施設群創隊23周年



十月二十五日岩見沢駐屯地で自衛隊協力会岩見沢地区連
合会（会長 倉増 昭一氏）及び隊友会岩見沢支部（支部
長 長崎 進氏）共催のもと、駐屯地創立四十五周年・第
十二施設群創隊二十三周年創立記念行事が駐屯地あげて盛
大に行われた。



早朝激しく降っていた雨も
あがり、晴天に恵まれ駐屯地
開放と同時に、近隣市町村か
ら多数の部内外来賓、隊員家
族及び一般市民約千二百三十
名が来隊し、駐屯地は早朝か
ら賑わった。

式典は二戸駐屯地司令の式
辞に先立ち第三三五施設中隊
の栗沢町出身の武田二土が
「服務の宣誓」を元氣よく行い
その後司令の式辞、能勢邦之
岩見沢市長、衆議院議員小平
忠正氏より来賓のお祝いの言
葉を述べられた、その後協力
関係者への感謝状の贈呈と続
き、最後に第十一音楽隊の演
奏に乗せて車両による堂々の
観閲行進を実施した。

一連のセレモニー終了後、
観閲台正面において、第十一
音楽隊の演奏、岩見沢駐屯地
では初めて岩見沢市民のよさ
こいチーム「しよらぶ」・「こ
ぶし」がよさこい踊りをそれ
ぞれ披露した。

その後状況開始ラッパとと
もに米隊者が楽しみにしてい
た模擬戦が始まり、敵部隊が
空中機動でヘリコプターから
リベリング降下、陣地占領し
地雷原の構成や化学剤の散布
を行った。これに対し味方部
隊の偵察バイクによる偵察行
動や化学処理車や人員による
処理要領を展示、次に敵のヘ
リコプターによる航空攻撃が
始まり味方部隊は自走式高射
機関砲や携帯式地对空誘導弾
で対空戦闘を行い、最後に地
雷原の処理、七四式戦車・自
走りゅう弾砲・六〇式装甲車

による迫力ある空砲射撃によ
って敵陣地を撃破奪取した。
この一連の模擬戦に観客は、
その場面ごとに大きな拍手と
声援を送っていた。

一方、体育館では十二時か
ら祝賀会食が行われ、約三百
名の参加者とともに創立を祝
った。引き続き十二時三十分
からは「ふれあい会食」と題
して、各市町村ごと分かれて
各担当中隊と共に隊員が腕に
よりをかけて作った松茸の炊
き込みご飯と一緒に羊煮会を
実施し和気あいあいとコミニ
ケーションを取りながら会場
の人たちのおなかを満たして
いた。

そのほかに、駐屯地美術陶
芸展、戦車・高機動車試乗、装
備品展示、子供広場などこの
ほかにも数々のイベントが催
され、終日賑わいを見せた。

感謝状贈呈

日頃から岩見沢駐屯地及び
駐屯部隊に対してご支援・ご協
力いただいたりの方々へ、岩
見沢駐屯地司令より感謝状の
贈呈が行われた。

- 感謝状の受取者
- ・ 辻 登子 様（三笠市）
 - ・ 仁村 折男 様（有沢市）
 - ・ 湯佐 義春 様（有沢市）
 - ・ 河部 勇 様（三笠市）
 - ・ 及川 騰 様（三笠市）



「駐屯地写真パネル展」

四十五周年の創立記念日を迎
えるにあたり、十月七日から
九日J R岩見沢駅構内、十月
十九日から二十二日岩見沢郵
便局本局ロビーの二カ所で
「地域と自衛隊」をテーマに写
真・パネル展を開催した。

内容は、岩見沢駐屯地創設
以来の歴史・隊区四ヶ市町村
（有沢市・三笠市・栗沢町・
北村）での部外工事・災害派
遣・雪害派遣・各種行事支援
の様子を写真や当時の新聞記
事なども交えて、岩見沢自衛
隊が地域のために貢献し市町
村民との和を深めているのが
紹介されている。

市民らは、普段見る機会が
少ない隊員らの活躍に足を止
めて見入っていた。



駐屯地司令式辞紹介

只今服務の宣誓を再現した
のは、栗沢町に生まれ、栗沢
中学から駒大岩見沢高校をこ
の三月卒業し入隊した武田和
也二等陸士であります。この
宣誓は、任官にあたり全隊員
が誓うものであり、自衛隊員
としての出発点即ち原点なの
です。岩見沢駐屯地開庁四十
五周年の節目を迎えたこの創
立・創隊記念日に当たり、そ
れぞれ入隊の時にした服務の
宣誓に立ち戻り初心に返って
みたいと思います。

自由と民主主義を基本とす
る日本の平和と独立を守る、
日本国民の国民のための軍隊
である自衛隊を構成する一員
として私たちは高いモラルが
要求されています。

つい先日まで連日のごとく
報道されていたような背任事
件は、私達がめざすものと全
く反対の方向にあるもので
す。日本のため、日本国民の
ため、自分を捨てて貢献する
ことを誓った私達は、たとえ
やせ我慢であったとしても
堂々と日本のモラルの最後の
砦でありたいと思うのです。

さて、御来臨の皆様、岩見沢
駐屯地は、昭和二十八年二月
当時の陸別台と呼ばれていたこ
の日の出台上に、原野を拓き
自由と平和と民主主義をつら
ぬき限らない繁栄を願う皆様
の武力集団として誕生しまし
た。じれ四十五年間、皆様の
岩見沢自衛隊は、地域の開発
と発展のため、土を築き木を
構み、道を拓き橋を架けてま
いりました。また風水害・雪
害にあたり人命を救助し被害
復旧の一助となってまいりま
した。

他方皆様は、岩見沢への部
隊誘致以来四十五年間、空知
の中核都市岩見沢に自衛隊が
駐屯することを、絶え間なく
支持し応援して下さいまし
た。岩見沢市・三笠市・栗沢
町・北村の皆様と私も駐屯
地に勤務する隊員とが和をな
して皆様の岩見沢部隊を育て
てこられたのです。

（3面に続く）



左から大塚氏、蔵本氏、千葉氏



式典時、巡閲を行う長崎支部長

「岩見沢駐屯地記念行事共催」
 隊友会岩見沢支部（支部長長崎 進氏）は、平成十年十月二十五日（日）自衛隊協力会岩見沢隊区連合会（会長倉増昭一氏）岩見沢駐屯地（司令一戸俊一佐）共催で岩見沢駐屯地創立四十五周年及び第十二施設群創設二十三年周年記念行事を行った。
 その概要は一面掲載のとおりである。当日朝まで断続的に降っていた雨も上がり、記念祝賀行事は予定通り行われた。隊友会会員も約五十名強参加され久しぶりに、再会を喜びあった。
 今回は、参加された会友のスナップ写真を掲載します。なお、紙面の制限上、やむを得ず割愛せざるを得ない方もおりますがご容赦下さい。



訓練展示を見る左から門脇氏、吉田氏、阿部氏、石井氏、千葉氏



左から小林氏、阿部氏、鶴田氏



左から千葉氏、二之宮氏、鈴木氏



祝賀会場にて左から北野氏、那須氏



後 藤 氏



櫻井氏



訓練展示を見る左から青木氏、中谷氏



受付にて合田氏



隊友会受付にて、左から渡藤氏、田代氏、山村氏



左から高橋氏、芳野氏



左から志田氏、谷藤氏、中谷氏、千葉氏



左から中西氏、田中氏、古賀氏



左から小田氏、葛西氏



左から阿部氏、山本氏



左から石井氏、村岡氏、花松氏



左から工藤氏、城岡氏、青木氏



左から山村氏、田代氏、佐藤陽治氏



神田氏、門脇氏、遠藤氏、葛西氏



左から小山氏、寺島氏、日向氏

H
 株式会社 **本堂建設工業**
 本社 〒068-21 TEL 010267-2-7300
 三笠市四山350番地1 FAX 01267-2-6858
 札幌支店 〒003 TEL 011-861-1381
 札幌市白石区本通り南1の8 FAX 011-865-3034
 石狩支店 〒061-32 TEL 0133-73-3111
 石狩町花川南1条1丁目 FAX 0133-73-0757

自衛隊退職者雇用協議会
岩見沢支部
 事務局：岩見沢商工会議所内
 支部長：武蔵 信一
 TEL：0126-22-3445

HIBA
千葉電気工事株式会社
 代表取締役 **千葉 嘉男**
 岩見沢市東山町22番地71
 電話(0126)24-4567番

オール電化マンション
レジェンド
(有) エイ
 連絡先：岩見沢市6条西7丁目
☎ 22-0087

S **はしもと商事株式会社**
 人材派遣業・メンテナンスに関する事なら
 親切・丁寧・確実
 岩見沢市駒園5丁目6
☎ 22-5546
FAX 23-0474
 栗沢営業所/栗沢町北本町7番地
☎(0126)45-3920

医療機器・理化学機器
M **株式会社 ムトウ**
 取扱品目 医療機器・理化学機器・ME機器・病院設備
 放射線機器・FAXコピー機・貿易業務・歯科器械
 福祉機器・介護用品
 代表取締役 **田尾 延幸**

各中隊検閲終了

〔本部管理中隊〕
九月十六日～十八日
岩見沢・東千歳・上富良野
当初、広域に展開し機動路の整備にあたる群内各中隊の兵站支援を実施し、引き続き群主力の移動に伴って旧Tnを逐次閉鎖、これに並行して新Tnを開設すると共に、防衛戦闘支援を行った。

〔第三三五施設中隊〕
九月二十六日～二十八日
北大演東千歳地区
戦闘団の右側背を掩護する防衛陣地の、築城作業を担任する施設中隊が、自ら防衛構想を確立し、それに基づき自ら定めた各種掩体及び障子を、自ら定めた時期・場所ので構築して作戦目的を達成した。



〔第三三六施設中隊〕

〔第三三七施設中隊〕
十月十三日～十五日
孫別
構築する掩体及び障子の種類、位置、規模等が決定している状況で、「敵から発見されず撃つ」の構築を目標として、構築物の設計及び作業要領の創意工夫、特に構築技術の発揮について確認できる場を設定し、RRMATを実際に付置したほか、TK、AHにより攻撃させて検証した。



〔第三三七施設中隊〕

〔第三二二器材中隊〕
九月十五日～十六日
孫橋
後方地域において破壊されたMSRの予備経路として、VLTB4スパンを架設し、現地形に応じた架設要領の選定と無灯火作業を実施すると共に、GPTn内にVLTBを活用した応急ピットの構築を実施し、迅速な測量・設計等戦況の中実施した。



〔第三四二施設中隊〕

〔第三四二施設中隊〕
八月三十一日～九月四日
北大演
遅滞戦闘に任ずる戦車群に配置され、彼我混交した状況の中で偵察警戒部隊の収容に関わる支援を始め、戦闘間においても主要後退経路上に準備した障子を継続的に閉塞しつつ、戦車掩体の構築支援等を長縦深の地域において実施する等、流動的施設支援を第一戦車群との共同訓練の場として実施した。

〔第三〇二坑道中隊〕
九月七日～十日
上富良野
坑道式掩壕の実掘削に並行して、中隊を一夜機動で移動、再展開し掘削技術と効率的な部隊運用について訓練検閲を受閲した。この間、3SSMRの車両(発射機)を、実際に掩壕内に格納させて検証した。



〔第三〇二坑道中隊〕

〔第三二二器材中隊〕
九月二十一日～二十二日
孫別
当初、後方地域において破壊されたMSRの予備経路として新設道路の構築を実施すると共に、以後、Dの予備陣地としてのTK掩体の構築及び発煙の支援等、機械力を持つて後方における建設的施設作業から前方の戦闘支援まで、縦深にわたる施設支援を実施した。

〔第三〇二器材中隊〕
九月二十一日～二十二日
孫別
当初、後方地域において破壊されたMSRの予備経路として新設道路の構築を実施すると共に、以後、Dの予備陣地としてのTK掩体の構築及び発煙の支援等、機械力を持つて後方における建設的施設作業から前方の戦闘支援まで、縦深にわたる施設支援を実施した。

〔第三二二器材中隊〕
九月二十一日～二十二日
孫別
当初、後方地域において破壊されたMSRの予備経路として新設道路の構築を実施すると共に、以後、Dの予備陣地としてのTK掩体の構築及び発煙の支援等、機械力を持つて後方における建設的施設作業から前方の戦闘支援まで、縦深にわたる施設支援を実施した。

〔三・四月隊員 後期課程教育終了〕

七月三日～九月二十五日の間、岩見沢駐屯地で三・四月隊員後期課程教育が実施された。今回の教育は、陸曹候補士後期課程十九名、一般新隊員一箇区隊が、教育を受けた。今回の学生は、特に体力がすぐれ教育終了時には、体力検定一級に十九名が達した。



〔一般新隊員後期教育 教官を終えて〕



三 等 陸 尉 耐 子 今 西

初級幹部なら一度は経験すると言われていた新隊員課程の教官を、担任して思ったことは、区隊と事務室の人は集まってきたけれど、なにをどう進めていくかはこれから決めるといふ状態でのスタート。最後の終了式の実施要領まで次々に、計画を立てて、一週間前自分も経験しているけれど、あのころは完全に受け身

だったし、と困っている。と必ずスタッフの誰かから助けがありました。このスタッフの協力態勢は教育を進めるにあたって大きな力となりました。何よりもみんな新隊員により教育をしたという気持ちがあったのだと思います。

この教育では、一般二十と曹候補士は別区隊で、計一箇区隊が編成されました。自分たちの他に、もう一箇区隊があるというの、いろんな感情を生みましたが、切磋琢磨するにはよい環境でした。単に二十歳足らずの若者という点からは、立場の違う者との出会いで、得るところは多かったです。

現在ほとんどの新隊員と顔を合わせませんが、ほんの一ヶ月足らずですが、ほんの一ヶ月間になったのを見ると不思議な感じがします。案外はなかつたであろう新隊、それでも同期と一緒に過ごした日々を後にして、楽しい環境での驚きや戸惑いをまた旺盛に消化している様子も頼もしい限りです。

そして新隊員教育というのが中隊にとって、部隊にとって重要なものであるということに改めて思います。

教育中は、多くの方々から助言・助力をいただきました。どうもありがとうございました。

《一面の続き》
今一つは、教育訓練を通じ、信頼に足る人材を地域にもたすことである。私達は誰かが二十代で任期を満了し、あるいは五十代で定年を迎え、いずれ現役を退き地域社会の一員として元自衛隊員の看板を背負って生きることになります。即ち予備自衛官や予備自衛官として地元経済と国の安全との双方に貢献するに当たり、地域の先輩から信頼され、後輩から尊敬されるような責任感旺盛でしかも高い技術を身につけておかねばなりません。

私達はこうした考え方を基に本日の式典のテーマを「貢献と和」に決めました。本日の訓練や展示は私達が「貢献と和」をどう具体化しようとしているかの一端であります。地元の皆様、隊員家族、知人の方々、言葉をおかければ皆様の岩見沢部隊の株主としてご覧になって頂きたいです。また、能勢岩見沢市長、青木三笠市長、村上村長をして遠く本田天塩町長はじめ地域の政治・経済・教育各界の指導者の皆様には地元岩見沢自衛隊が皆様の信頼にお応えできる部隊になっているか、厳しい目で見ていただきたく思います。そして時局多端に拘りませず御来臨賜った国会でご活躍中の小平先生、現在も国防政策にご尽力いただいている渡辺先生、道政の場で安全保障に深くご理解頂いている瀬能先生、第一戦部隊が正しく運営されているか確認頂ければ幸いです。

皆様本当によろしくお世話になりました。一同心から歓迎感謝申し上げます。今日一日が充実したものであるよう隊員・職員一同頑張っております。

陸上自衛隊第十二施設群長 兼 岩見沢駐屯地司令 二 戸 俊 一



人事往来

◎転出
【第十二施設群】

群本部
三佐 集合 裕文 陸幕機務課
二尉 西川 徳治 〇〇器隊

本部管理中隊
曹長 村形 利昭 7 施大
三曹 小汀 恭子 団付隊
士長 川北 珠世 11 施大

第三三六施設中隊
三曹 大山 充 303 夕中
士長 東坂 拓也
第三三六施設中隊
二曹 阿部 康宏 岩 業
三曹 奥村 篤広 1 施群

第三三七施設中隊
二尉 宮川 治彦 防 大
三曹 谷 充晃 5 施大
三曹 野呂 泰彦 13 施群

第三四二施設中隊
二曹 川原 忠信 2 施大
三曹 大沼 穰 冬戦教
第三〇二坑道中隊
三曹 村口 優介 7 施大
三曹 堀岡 竜一 札地連
一尉 森杉 莊司 施設学校
二曹 小林 一幸 2 施大
二曹 葛西 伸 39 普連

◎転入
【第十二施設群】

本部管理中隊
曹長 中田 賢二 岩 業
一曹 岡藤 務 105 器隊
一曹 増永 正明 7 施大
三曹 大塚 健一 105 器材

第三三五施設中隊
三曹 上村 大輔 1 施群

第三三六施設中隊

二尉 藤尾 伸吾 4 施大
一曹 深山 生雄 1 施群
一曹 瀬崎 謙二 2 施大

第三三七施設中隊

三曹 水間 正人 7 施大
第三四二施設中隊
一曹 木内 敏明 2 施大
第二二二施設器材中隊
一曹 荒井 朝成 岩 業
一曹 藤岡 幸男 南恵庭業
第三〇二坑道中隊
一曹 阿部 誠 岩 業

【業務隊】

一尉 橋本 慎一 10 普連
一尉 山田 國重 1 特群
一曹 皆川 達也 18 普連
二曹 加藤 一貴 12 72 施群
二曹 阿部 康宏 12 72 施群

永年の勤務ご苦労様でした

本部管理中隊
3尉 金澤 光雄
就職先 北海道銀行 岩見沢支店



業務隊
曹長 山本 雄洋
就職先 北海道郵便送券



第三二二施設器材中隊
曹長 山田 利文
就職先 北海道ハイウェイ・サービス



こんにちは☆赤ちゃん



第三二二器材中隊
二曹 鹿子木 一徳
長男 優太くん
9月24日



第三三七施設中隊
二曹 沼田 富士男
次男 和希くん
8月11日



第三三五施設中隊
二曹 西村 貞幸
長女 茉彩ちゃん
8月4日



本部管理中隊
二曹 宮下 博
長男 悠輝くん
7月21日



第三三七会計隊
三曹 道下 安彦
清美さん
7月19日



第三二二器材中隊
一士 岡本 辰二
綾 乃さん
9月1日



第三二二器材中隊
三曹 松尾 彰史
由依子さん
7月30日



第三三七施設中隊
三曹 岩下 栄市
理沙子さん
9月15日

結婚おめでとう

豊かな味、いこいの広場
信頼できる式場で安心の結婚式
三井グリーンランド
ホテル サンプラザ
〒068-0004 岩見沢市4条東1丁目6番1号
TEL 0126-23-7788

お二人の旅立ちを、真心のおもてなしでご祝福いたします。
Do Wedding
IWAMIZAWA HEIANKAKU
TEL 0126-27-690

110 朝日生命
110周年の朝日生命です。
担当 堀内 千鶴
電話 011-384-5537

GEキャピタル・エジソン生命
明るい未来に向かって
国際的な企業との提携
平成10年4月1日「AA」格付けでのスタートです
常駐職員 深澤 隆子 (内線338)

大きな安心とゆとりのプラン
My Family
家族を守り、明日を生きる
担当 田村 純子 内線 338
小川 洋枝 338

ゆたかな明日へ
明治生命
岩見沢営業所 電話 22-1637
担当 村山 利江
丸田 奈緒美

車の事ならなんでも相談
中古車販売 車検整備 板金塗装
日動火災保険代理店
大和マイカーセンター
代表 吉田 金清
マイカーセンター 岩見沢市9条西21丁目1-1
TEL (0126) 25-2024
自宅 岩見沢市北2条西20丁目26
TEL (夜間) 24-4576
携帯電話 080-275-7278

防衛庁職員家族団体傷害保険
共済組合集団取扱スーパーガン保険
傷害保険スーパーに切替実施中
弘済企業
松村 正司
TEL (0125) 22-2141 内358
専 8-163-358

安心しっかり
愛車もしっかり
車検費用積立プラン
富士火災
担当 松浦直樹
岩見沢支社 TEL 23-5142